



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 自然からの学び

旭町小学校長 道山 正史

先日3泊4日の軽井沢移動教室に6年生と行ってきました。一番はじめに感心したことは、そうするように今回言っていないにもかかわらず、トイレのスリッパがきちんとそろえられていたことでした。トイレの前を通りかかったときにわざわざ直す子供もいたほどです。担任にそのことを話すと、5年生の移動教室ではかなり厳しく教えられたとのことでした。大切なのはそのことをきちんと覚えていて、あるいは身につけていて実行できたことです。ベルデの廊下を走る子供も5年生の時に比べて格段に減ったとも聞きました。

でも...時間にのんびりしているところはあまり変わっていないし、自分の支度がおろそかになる子供も結構いる...。担任や指導員はやきもきするのです。それでもベルデの方は、子供たちが様々なことについて感動し、感嘆の声を上げる素直な様子に最大級の賛辞を下さり、校長としてはとても誇らしく感じた次第です。

軽井沢の自然や宿舎、お世話になった人々は私たちに多くのことを学ばせてくれました。今、体験的な活動を通して自然を理解する力や思いやりの心をはぐくむ教育の重要性が指摘されています。自然とのふれあいを通して、驚き、疑問、意外性、共感など、自然と対話する態度を培い、それを基盤として子供のみずみずしい感性や創造性をはぐくみ、自然に主体的に関わる力や心を育てようとするものです。

よく見ると私たちの周りには、小さな自然、ささやかな自然がたくさんあります。校庭や通学路、街路樹、ましてや光が丘公園がすぐ近くにある立地からすれば、都会にあっては贅沢とも言える環境です。そこには四季に応じて咲く花、鳴く鳥や虫の姿が見られることでしょう。このように都会の道ばたなどにひっそりと生き続けている野草、葉先で動いている虫などの生き物、季節の変化に応じてみられる雲の形の移り変わりなど、自然の変化や営みに対して感受性のある子供を育てたいと思います。

軽井沢のような大きなすばらしい自然を仲間と共に体験し、そのことがきっかけとなり身近な小さい自然に気づくことのできる目が育ち、感じることのできる心が育てば、弱い者をいとおしみ、命の尊さを知り、相手の痛みを自分のものとして考えることのできる心の優しい人になれるのではないかと大きな期待をします。